経済教育ネットワーク
Network for Economic Education

東京部会(第 137 回)記録	
日　時:	2023 年 11 月 18 日（土）15:00 -17：00
場　所:	慶応義塾大学三田キャンパス東館オープンラボ＋Zoom による web
参加者：	26名（慶応会場7名＋zoom19名）

【内容要旨】

（1）　熊田 亘先生（筑波大学附属高校）から「おもしろ授業の秘密を探る」と題して、4つの授業が報告された。

授業をおもしろい／おもしろくない、役に立つ／役に立たないと分けた時、1番は「おもしろくて役に立つ」だが、次の「役に立たないが面白い」が自身の授業づくりで心がけていることであるとの授業観を開陳された。おもしろければ、そのあと関心を持つ生徒がでてきて、寝たり、内職したりしない。授業が「新作落語」と命名されたこともあるが、新しい教材を作ることが好きで、例えば『多数決を疑う』（坂井豊貴）を読み、すぐさま授業にしたいと思ったと語った。

報告では、著書『「おもしろ」授業で法律や経済を学ぶ パート3』から次の4つの授業の紹介があった。

授業①「社会科学でマスクを考える」では、マスクを題材として、社会科学の眼鏡をかけかえるように考えていく、との年間授業のイントロダクションとなる授業の説明があった。4つの眼鏡としてコロナ下での価格上昇から費用・便益、外部効果を経済学で分析でき、法学からはマスクをつけることの社会規範性、政治学からはアベノマスクの政治過程論と政策評価、経営学からはマーケティングの４Pで考えられるとの紹介があった。

授業②「多数決について考える」では、生徒は、多数決のよいところを満足度の最大化と答えるのに対し、よりよい選択ができるとは言わないことに注目し、陪審原理に基づいて条件を満たせば正しい選択ができることをエクセルの数値計算を用いて示せること（条件を満たさないと正しい選択ができないこと）が紹介された。また、社会科学のモデルには前提があり、使い方を誤ってはいけないことを気づかせたいという説明があった。

授業③「経営分析とは」では、商業の教科書も参考に、貸借対照表や損益計算書について講義し、任意の会社調査を生徒の課題とした例が紹介された。

授業④「ゲーム理論」では、3種類のゲーム理論を示したうえで、こうした利得表で表現できるものの例を考えさせたことが紹介された。誰かの行動に依存するゲーム的状況は想像させづらいが、スポーツでわかりやすい事例があったとの説明があった。

検討では、新井明先生より、上記の授業について、指導要領からある程度自由であるが、参加の授業形態で設計・計算された活動になっているとの指摘と、授業内容の生徒の受け止めや経営分析の要点、囚人のジレンマモデル以外のゲーム理論を考察させることの可能性について質問と熊田先生による回答があった。

また、教材の工夫に関して、モノを見せて実感させることのメリットがあるとの説明（1オンス金貨を実物で）や、『おもしろ授業』の第1巻にある経済学の歌を今でも歌っているとの紹介もあった。

ゲーム理論の利得票を生徒に想定させると、教師の想定との齟齬が生じる点についてどう考えるかという質問に対しては、熊田先生からの回答に加えて、篠原代表から前提条件が鍵であり、的確でないと単純化したモデルでの説明は焦点がぼやけるとの指摘があった。

（2）　中山 諒一郎先生（昭和学院）から「ICTを使った労働問題の授業」についての報告があった。

GoogleスライドやGoogleクラスルームを用いた、ペーパーレスの授業の実践である。生徒は、配布された個人用スライドをプリントの代わりにして、一人１台の端末で回答を入力したり手書のメモを作成したりして授業に参加する。

経済教育ネットワーク
Network for Economic Education

授業の流れは、前回授業の振り返り、今回の授業内容の解説、労働者が悲惨な状況に置かれる理由の考察、求人票を調べる（ダウンワークやインディードなどネットのリサーチ)、労働条件や労働時間に関するケーススタディから労働法規定とその立法趣旨の考察、本時の授業の振り返り、というものである。

ブラックバイトの記事の紹介と契約自由の原則、労働法の意義に関する教師の説明は、長くても10分として、その後は生徒の活動により授業を構成していて、最後にその日の学びを言語化する振り返りが用意されている。

検討では、まず、ペーパーレスのメリットやデメリット、労働法の立法趣旨を生徒は想像できるのか、校内での理解や普及の苦労、評価の問題について質問があった。

中山先生からは、オンラインだと資料配布、採点、コメント、共有、返却などがオールインワンでスムーズであること、低い学齢では悪影響もあるが、高校生ではそれは減り、紙よりも良いという意見があること、紙のノートに自分の疑問を書くなど紙との併用も指導すること、教科特性を踏まえた使い分けが重要であるなどの回答があった。

また、評価に関して、ルーブリックを使うと教師への忖度がうまれてしまうのではという指摘には、ルーブリックとわかりやすい説明を組み合わせることで定量的な評価とはなるが、透明性が担保でき、オンラインとの相性も良いこと、ルーブリックの想定を超えた解答には部分点を与えるなど、自由な学びを阻害しないための工夫についての回答があった。

労働問題の扱いに関しては、「公共」で新しく取り入れられた「職業選択」との関連を考えているか、ケーススタディの設定における適切性、そこから何を学ばせるのか、また、SOSを出す手段や労働組合にも触れること必要性などについての質問と指摘があり、紹介授業は「現代社会」だが「公共」を踏まえていること、指摘に関しては再考したいとの回答があった。

３　諸連絡

東京部会や大阪部会、3月の春の経済教室について、日程の確認が行われた。

文責：杉浦光紀

次回開催予定: 2024年1月6日(土)15時00分～17時00分
対面会場:慶応義塾大学三田キャンパス東館オープンラボ
議題:教材提案と検討